

第1回 北栄町子ども・子育て支援会議 報告

日 時	令和元年12月3日(火)15:30~17:00
場 所	大栄農村環境改善センター 会議室1
出席者	伊奈公子委員、森田秀子委員、津島 望委員、青島陽子委員、 鹿島恵里委員、松岡幸子委員、松本八千代委員 (欠席)入江明代委員 (事務局)別本教育長、大庭教育総務課長、中野室長、福嶋副主幹
<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ (教育長)</p> <p>この会議は平成 24 年に成立した子ども・子育て支援法を受けて平成 27 年に第 1 期の事業計画を策定した。今年度が最後の事業年度となり、来年度から第 2 期の事業計画を立てる必要があるということでお集まりをいただいた。子育て環境については、10 月から 3 歳から 5 歳までの保育料が無償化になり、保護者は喜んでおられると報道等で盛んに言われている。そのことによって未満児の方が就園してこられ、保育人数が増えたと、今年も 4 月現在で何とか希望される子どもを受け入れる体制が整ったところだが、中途入所に対しては、保育教諭がいないということでお断りをしている段階。当初待機児童はなかったが、現在中途では待機児童が出ているという状況。来年の 4 月以降も心配をしている。この計画で保育の入所環境をどうするのかというところをしっかりと議論していただきたい。安心して子育てができる事業計画となるよう活発な議論をお願いしたい。</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会長及び副会長選出 会 長 伊奈公子委員 副会長 入江明代委員</p> <p>5 第2期北栄町子ども・子育て支援事業計画について(事務局説明) ①策定スケジュール ②第2期北栄町子ども・子育て支援事業計画(骨子案)</p> <p>意見交換</p> <ul style="list-style-type: none">・ 定員に対して保育教諭が確保できないというのは待機児童発生の原因になってくると思う。部屋は空いているのに保育教諭が確保できないから入れない。表現が 4 月 1 日は定員割れしているから入れるだろうと一般の人は思ってしまう。保育教諭の確保がどのくらいできているかということも表現したほうがもう少しわかりやすい。・ 定員に達していないから入れると思って就職活動しているが、途中入園できないということが	

伝わらない。

- ・ 今年から募集方法が変更になり、何月から何月入所希望の人はこの時期にと聞いたらそのタイミングでも安心して入れると思ってしまう。しかし保育教諭を確保できていないから入れないと聞くと、表現が違うと感じる。
- ・ 場所としてはあるけど保育教諭のことをもう少しわかりやすく関連付けて保護者にも理解してもらえるように記載したらよいのでは。
- ・ 一番は保育教諭の確保だが、これからそのあたりをどうしていくか
- ・ 入所園児数について、4月1日現在としているところは最大人数にし、本当はどれくらいの保育教諭が必要だったのかを記載する方がわかりやすい。
- ・ 北栄町では企業型の保育園の誘致はないのか(ない)
- ・ 他の町では企業型の保育園を入れるという話を聞いた。待機児童は産後育児休業から復帰する方の途中入園が多いと思う。4月の時点ではまだ入園できず、復帰するというタイミングになると入園できない。
- ・ 育休から復帰する際に入園できず、仕事が続けれないとなったときに、お金の確保をどうするのかということを保護者は考えないといけない。
- ・ 北栄町で保育教諭の確保が難しければそれ以外の方法で考える必要もあるのでは。
- ・ 一番は0歳のところからみれる保育教諭がいるのが保護者としては家庭のためにも働けることになる。
- ・ 新しく「保育教諭の確保」もこういうふうに尽力しているみたいな項目ができるといい。
- ・ 働きたい保護者と働いてほしい園のニーズがマッチすればいいと思う。仕事がしたい、けど前の職場はやめている人が保育園で働けて子どもも預けれるというようにいい具合に納まらないか。
- ・ 保育教諭確保のところに保育教諭の待遇とか資格取得代金も助成するというのがあればいい。
- ・ 保育士は今ブラックな部分だけがテレビなどで取り上げられることが非常に多く、楽な仕事ではないが、一人の子どもの育ちに立ち会える、そこに自分が関わられるというプラスアルファな部分を学生には一生懸命伝えようとはしているが、学生もなかなか現実的。
- ・ 採用試験を前倒して民間が決まってしまう前に確保できるような方策は考えられるかもしれない。
- ・ 例えば保育士の確保ができなくて待機児童が出る。結局4月では待機児童は0だが潜在的な待機児童はいるという現状をこの骨子案に書くのであれば、北栄町の現状とか課題みたいなところに入れられないか。いくら目標を出してもそこは実体がないので厳しい現状が数字で上がるだけという感じに。
- ・ 結局保育園に入れないなら今子どもをつくれないうことになる。
- ・ この先人口減少を止めないといけない、子どもを産もうと思っても、結局産んだらみないといけない。みてもらえるところがなければ仕事ができず家計を圧迫する。
- ・ 北栄町は待機児童も潜在的な待機児童もいません、子どもを産んでもらったら絶対預けれるんですけど言ってもらえると安心して子どもを産むことができる。
- ・ 子育てなら北栄町というなら子育てしやすい環境で子どもを産みやすい環境をまずは考えないといけない。
- ・ マイナスなイメージになるが、十分な保育教諭の確保はできてないががんばって取り組んでいるみたいなことを今回ちょうどいい機会だから入れられたらと思う。嘘をついていないということ。
- ・ 数値化するのとはすごく難しいと思うが、入所児童数だけを見るとできているように見えてしまうので、こういう困りごとみたいなのは記載したほうがいい。

- ・ 例えば大谷こども園をなくして由良こども園に入れば保育教諭の人数が確保できるのではないかと思う。大誠でも北条でもどちらの地区の子も通いやすいところが新しくできれば一つ園を減らすなど、抜本的な改革をしながら保育教諭の確保を検討すればもう少しスムーズにいくと思う。
- ・ 保護者の希望は一つの園に集約しないかということ。
- ・ 日本として人口が急激に減っていく中でここを手厚くしたとしてもそれに見合うだけの子どもが本当に生まれるかっていうことは難しく、新しい施設を建てるというのは行政としてもなかなか読み切れない部分があるのでは。
- ・ 保護者の子育てに関するニーズと社会の状況と市町村を合わせていくというのは非常に難しいところだと思う。
- ・ 第1期の事業計画の評価として、こういうふうにしたんだけど現状としては数字には表れていないが変えれない現状もあり、それに対する課題としてこういう取り組みをしていくということはどこかに入れて欲しい。
- ・ 町として子育てを支援するという気持ちが入ってくるといい。
- ・ 働かないといけない状況にあるかもしれないが、生まれてすぐ保育所ありきなのが昔の親としては残念。
- ・ 0歳から1歳半まででもお金がもらえるんだったら一番かわいいときに子育てしてほしい。
- ・ 保育士は資格がなくてもできる人もあれば資格があってもできない人もいろいろあるだろうが、人数が足りないから誰でもいいというのはどうかと思う。事故があったときに誰が責任を負うのか。
- ・ 地域で育てるというのは、保育所が地域じゃなく、ほかのみんなも地域なんだからそのあたりは何かできるような北栄町になってほしい。
- ・ 本当は子どもが小さいうちは家でみたいという保護者が生活のことを気にせずに安心して子育てができるような支援があれば。
- ・ 世代間ギャップがある。今の若い子たちは子どもは産むけど、自分のライフイベントを一人の人間として生活していきたい、自立していきたい、だから自分のキャリアを積んでいきたいと思っている。
- ・ ジェネレーションギャップはすごくあると思うが、もう少し今の世代や社会に即したものにしないでほしいと思う。
- ・ 子育てにやさしいとか地域で育てるといふ本当の意味はいろんな角度でこれという特効薬があればこの少子化問題はないと思う。そこを北栄町として知恵を出していくことが将来的には一番大事。

(会長)

第1回目ということで具体的なものはないが、みなさんの率直な意見を聞かせていただいた。基本理念に関する提案についてよろしくお願ひしたい。

6 その他

次回開催予定 令和2年1月20日(月)15時30分～

7 閉会